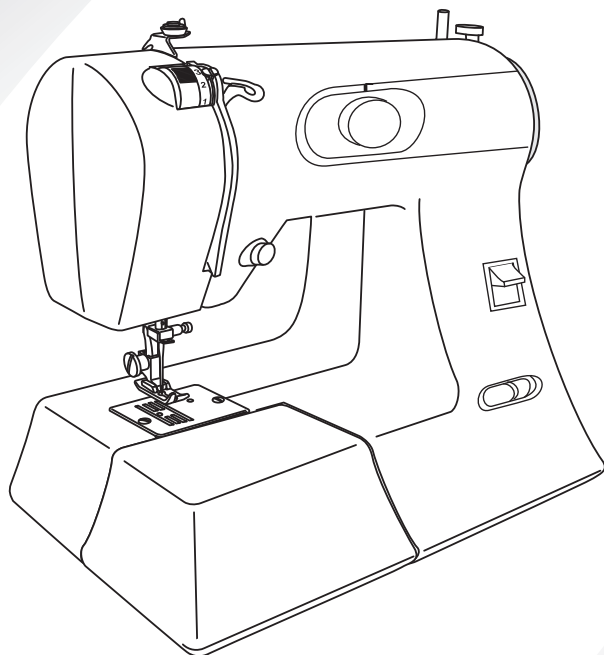


# 取扱説明書

型式：FL-55 シリーズ

Compact Sewing Machine



お買い上げいただきありがとうございます。



**警告**

電気製品は安全のための注意事項を守らなければ、火災や人身事故になる場合がございます。「取扱説明書」には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いを示しています。「取扱説明書」をよくお読みのうえ、製品を安全にご使用ください。

また、お読みになった後はいつでも見ることができるよう、必ず保管してください。

# もくじ

## お使いになる前にお読みください

安全上のご注意	2 ~ 4
取り扱いの注意	5
各部の名まえ	6
付属品	7
補助テーブル	8

## 操作の仕かた

押え	9 ~ 10
電源を入れる前に	11
電源を入れる	11 ~ 12
スピード調節	12
模様の選びかた	13
縫い模様一覧	13

## 縫う前の準備

ボビンの取り出しかた	14
下糸の巻きかた	15 ~ 16
下糸のセット	17 ~ 18
上糸のかけかた	19 ~ 21
下糸の引き上げかた	21
針、糸、生地の関係	22

## 縫ってみる<基本編>

直線縫い	23 ~ 24
糸調子の合わせかた	25
返し縫い	26
厚地を縫う	26
縫い方向を変える	27

## 縫ってみる<応用編>

ジグザグ縫い / 縁かがり縫い	27
ボタンホール縫い	28 ~ 30
まつり縫い	30 ~ 31
アップリケ	31
ゴムテープ付け	32
パッチワーク	32

## お手入れ

針の取り替えかた	33 ~ 34
正しい針の選びかた	34
ボビンケースの掃除	35 ~ 36
送り歯掃除	37
ランプの交換	38

## その他

ソフトカバー	39
困ったときは	40 ~ 41
仕様	42
修理サービス要領	43
サービス工場・ご相談先	44
保証書	裏表紙

# 安全上のご注意

ご使用前に「安全上のご注意」を必ず読み、正しく安全にご使用ください。  
この取扱説明書および商品には、安全にお使いいただくためにいろいろな表示をしています。以下の表示を無視して誤った取り扱いをすることにより生じる内容を、次のように区分しています。








以下の内容をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。




- このミシンは日本国内向け家庭用です。  
For use in JAPAN only. 国外での使用および職業用としてご使用になった場合の保証は出来ません。
- 仕様および外観は品質改善のため、予告なく変更することがあることをご了承ください。
- 取扱説明書の内容は予告なく変更することがありますのでご了承ください。
- 取扱説明書の内容を許可なく無断で複製をすることは禁じられておりますのでご了承ください。





**警告** この表示を無視して誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う恐れがある内容を示しています。







**注意** この表示を無視して誤った使い方をすると、人がケガをしたり財産に損害が生じる恐れがある内容を示しています。





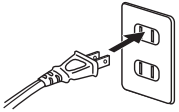
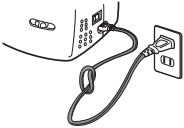
この説明書で使用している絵文字の意味は次の通りです。





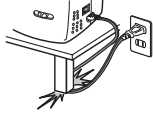
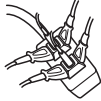






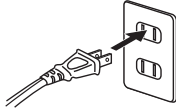




危険性を促す記号	行為を「禁止」する記号	行為を「指示」する記号
 火災の原因になります。	 禁止	 必ずすること
 感電の危険性があります。	 分解禁止	 電源プラグを抜く
 ケガの危険性があります。		

**注意**    ケガや財産に損害が生じる恐れがあります。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>不安定な場所に置かないでください。</li> <li>動作中に、はずみ車、天びん、下糸巻き軸、針などの鋭利な部品に手を触れないでください。手や指が挟まる、針が刺さるなどケガの原因になります。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>曲った針は使わないでください。針が折れ、ケガの原因になります。</li> <li>カマカバーを開けたままミシンを操作しないでください。</li> <li>縫製中に生地を無理に引っばったり押ししたりしないでください。手や指が挟まる、針が刺さるなどケガの原因になります。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>火の気のあるもののそばでは使用しないでください。(火の消えていないタバコ、ロウソクなど) 火災の原因になります。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミシン本体の換気口をふさがないでください。</li> <li>換気口は、必ず壁から 30cm 以上離してご使用ください。また、換気口に糸くずやホコリが溜まらないようにしてください。火災の原因になります。</li> <li>スプレー製品などをご使用の部屋では、使用しないでください。スプレーへの引火によるヤケド・火災の原因になります。</li> </ul>

 	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ミシンを使用しないときやミシンから離れたり使用を中断するときは電源コードプラグを抜いてください。絶縁劣化、漏電などによる火災の原因になる恐れがあります。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 電源コードは巻き付けしないでください。コードの断線や接触不良による感電の原因になります。</li> <li>• 濡れた手で電源コードプラグを抜き差ししないでください。感電の原因になります。</li> </ul>
 	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 幼児の手が届かない場所に保管してください。針や押えなどの突起でケガの原因になる恐れがあります。</li> <li>• 糸をセットするときやミシンの手入れを行うときは電源スイッチを『OFF』にしてください。作業途中にミシンが動く恐れがありケガの原因となります。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ミシンの操作中はミシンから目を離さないでください。</li> <li>• 交換した針を放置しないでください。</li> <li>• お子様を使用するときや、お子様の近くで使用するときは特に安全に注意し、お子様から目を離さないでください。</li> <li>• 針、押え、アタッチメントを交換するときは、電源コードプラグをコンセントから抜いてください。作業途中にミシンが動く恐れがありケガの原因となります。</li> <li>• 屋外や直射日光のあたる場所、高温多湿な環境、寒い場所での使用は避けてください。部品の劣化や変形、正常に作動しないことがあります。</li> <li>• ミシン本体は 4.7kg あります。ミシン本体を持ち運びする際は、急激・不用意な動作をしないでください。ケガの原因になります。</li> <li>• 電源コードを引き抜くときは電源コードプラグを持って抜き差ししてください。コードの断線や接触不良による感電の原因になります。</li> </ul>

	<h2 style="margin: 0;">警告</h2> <p style="text-align: center;">死亡、火災、感電の恐れがあります。</p>
  	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 一般家庭用電源 AC100V の電源以外では絶対に使用しないでください。AC100V 50/60Hz 同梱の電源コードは、このミシン以外には使用しないでください。</li> </ul> 
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">原因と なり ます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 電源コードを傷つけたり、折り曲げ、結び、ねじれ、加工はしないでください。</li> </ul> 

   原因 火災、感電の 原因となります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>傷付いたり、溶けて線がむき出しになったコードを使わないでください。            ＊ コードが傷付いた場合は販売店・サービスセンターにて純正部品をお買い求めください。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>電源コードに机や椅子の脚など、重いものを載せないでください。</li> </ul>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>分岐コンセントを使用したタコ足配線はしないでください。</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミシンの中に水や異物が入ったときは、電源スイッチを『 OFF 』にし電源コードプラグをコンセントから抜いてください。</li> </ul>	
 	<ul style="list-style-type: none"> <li>発煙や異臭、異音などの異常が発生したら電源スイッチを『 OFF 』にし電源コードプラグをコンセントから抜いてください。</li> </ul>	
ご販売店、サービスセンターに 火災、感電の原因となります。 連絡ください。	<ul style="list-style-type: none"> <li>落としたり正常に作動しないときは電源コードプラグをコンセントから抜いてください。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>電源コードプラグをコンセントにしっかり差し込んでください。</li> </ul>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>ミシン本体の換気口や内部に異物を入れたり、ドライバーなどを差し込まないでください。</li> </ul>		
 と死亡の原因 となります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>特にお子様は袋などの梱包材やミシンの付属品・ミシンから外した部品は絶対に口に入れないでください。            窒息など身体に影響を及ぼす恐れがあります。</li> <li>電源コードを身体に巻きつけないでください。            窒息やうっ血の恐れがあります。</li> <li>袋などの梱包材をかぶらないでください。            窒息する恐れがあります。</li> </ul>	 

# 取り扱いの注意

永くお使い頂くため、次のことを守ってください。

縫製以外や業務用、職業用の目的には、ご使用にならないでください。極度の部品摩耗や破損につながります。



**注意**

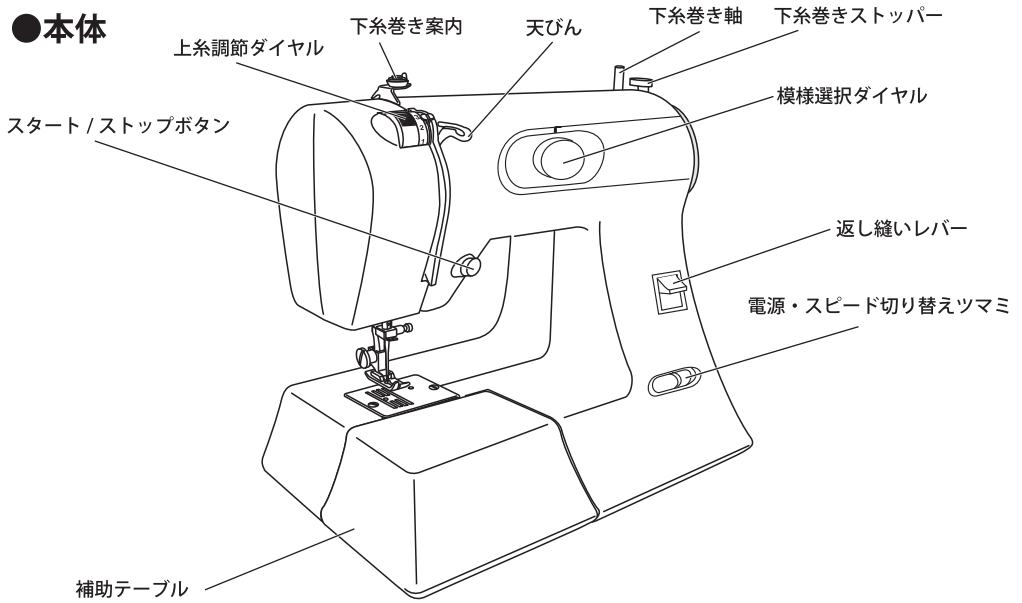


ケガやミシンの故障が発生する恐れがあります。

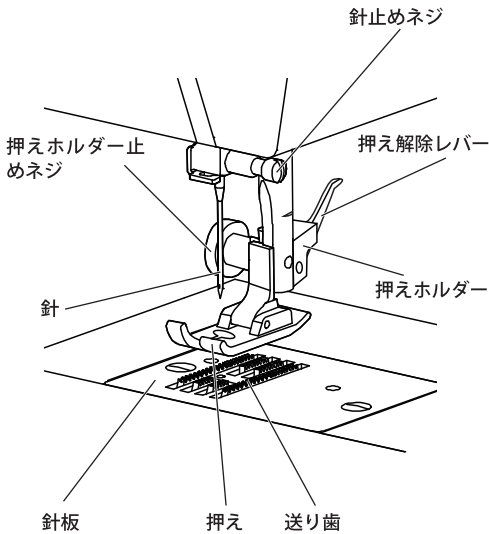
- 使用後は、上糸を外す  
収納の際に掛けていた糸が外れている場合があります。  
そのまま縫い進めると故障の原因になります。
- 曲がった針を使わない  
曲がった針を使うと、次のようなケガや部品の損傷につながります。
  - ・ 針穴に刺さらず、折れた針が飛びケガをする恐れがあります。 ・ 押えや針板に傷を付け、糸調子が合わなくなります。
- このミシンで縫えないもの  
つぎのものはこのミシンでは縫えません。針やモーターなどに過度の負担をかけ、故障の原因になるだけでなく、針折れなどの原因にもなります。
  - ・ 木、プラスチック、金属などの板・ぬれた生地、粗い網（漁網など） ・ はずみ車を手で回しても、針が刺さりにくい生地、厚さ6mm以上の生地
- 保管時の結露（つゆつき）について  
寒いところから、暖かい室内に持ち込んだときや、冬の朝など暖房を入れたばかりの部屋では、本体の表面や内部に結露（つゆつき）が起こることがあります。  
結露がなくなるまで、電源コードプラグをコンセント（家庭用電源）に接続しないでください。  
そのままお使いになると感電や誤動作・故障の原因になります。
- 直射日光・熱気をさける  
直射日光が当たる場所や熱器具の近くには置かないでください。プラスチックのカバー部分や内部部品に変色・変形や部品劣化などの悪い影響を与えますのでご注意ください。
- 糸絡みのとき、糸・生地を引っばらない  
針や部品が破損します。
- ミシン表面のお手入れ  
プラスチック部分の汚れがひどいときは、中性洗剤をぬるま湯に薄め、布に浸してかたく絞り、乾いた布で仕上げてください。  
＊ ベンジン・シンナー・ワックスなどで拭かないでください。
- 説明書で指定された以外の分解・改造はしない  
ネジ類の締め忘れやゆるみにより、針折れや部品の破損につながります。
- 長期間ご使用にならないとき  
長期間ご使用にならないと、油の乾燥・固着などで機能に支障をきたす場合があります。  
時々、ミシンを動かしてください。  
油の固着を防ぐことが出来ます。
- ミシンの上に物を載せない / ミシンの上に乗らない  
ミシンに負担がかかり故障の原因になるだけでなく、ミシンが倒れたりしてケガの原因にもつながります。

# 各部の名まえ

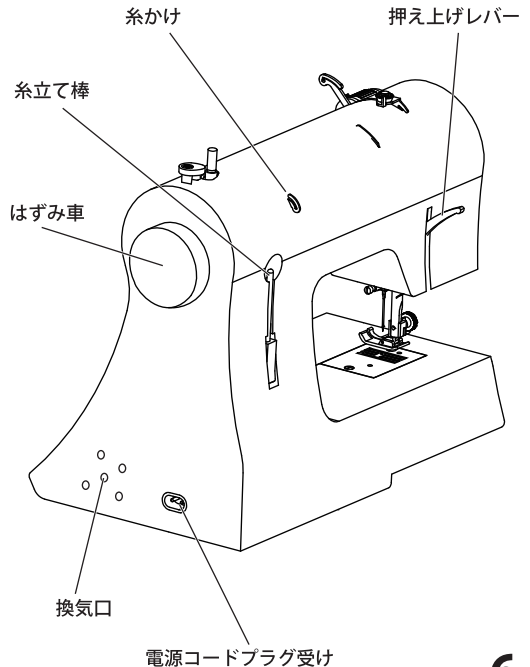
## ●本体



## ●針周辺



## ●その他





## 警告



- 付属品でお子様がかがをする恐れがあります。  
保管には充分ご注意ください。



- 付属品などの小さな部品は口に入れないでください。  
窒息をする恐れがあります。

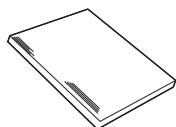
- 誤って油を飲んだときは、『鉱物油』である事を伝えて医師の治療をお受けてください。



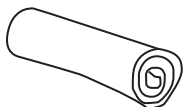
- 電源コードを身体に巻きつけないでください。  
窒息やうっ血の恐れがあります。



- 袋などの梱包材をかぶらないでください。  
窒息をする恐れがあります。



取扱説明書（本書）



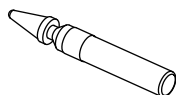
ソフトカバー



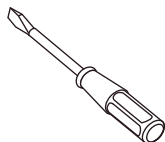
電源コード



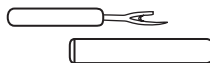
針板ドライバー



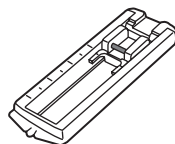
油さし



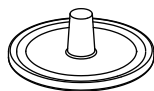
ドライバー



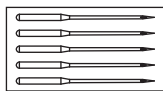
リッパー



ボタンホール押え



糸こま当て座



家庭用ミシン針 HA × 1  
5本（#11、14、16  
ニット用 #11、14）

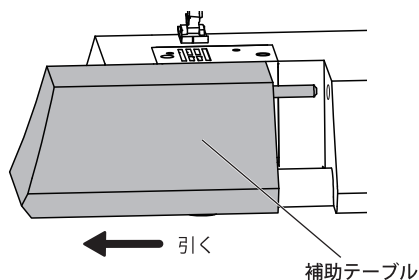


ボビン 2個  
プラスチックボビン  
高さ：11.5mm × 直径：20.5mm



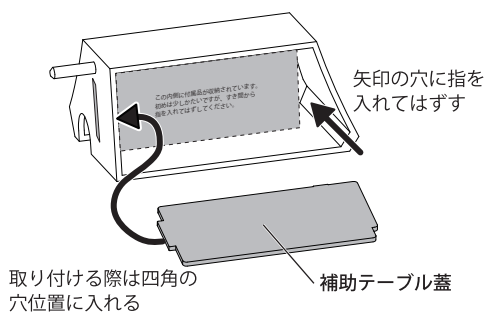
# 補助テーブル

## ●はずしかた



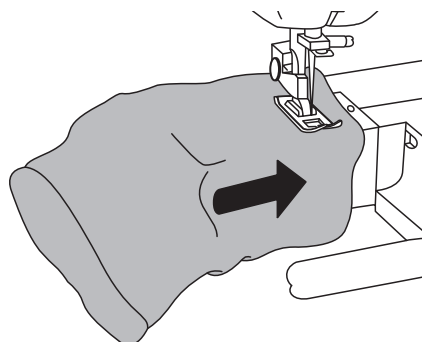
『補助テーブル』を持って左に引き抜きます。

## ●付属品の出し入れ



『ふた』をはずすと、付属品の出し入れができます。

## ●フリーアーム



『補助テーブル』をはずします。

筒形のもの（袖付け、ズボンの裾上げなど）をさしこんで使います。

# 押え



**注意**



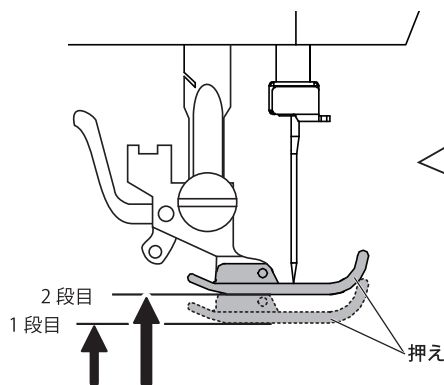
・電源を『OFF』にする。  
突然動くとケガをする恐れがあります。



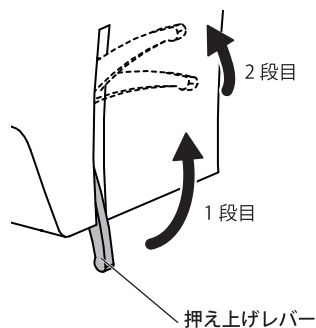
・針先に注意する。  
ケガをする恐れがあります。

## ●押えの上げ・下げ

<ミシン左横図>



<ミシン背面図>



『押え上げレバー』を上げると、『押え』が上がります。

更に『押え上げレバー』を上げると『押え』が上がる2段階式になっています。

\* 2段目では固定が出来ません。

\* 生地の厚みは1段目の高さを超えないようにしてください。



**注意**



・小さな部品でお様がケガをする恐れがあります。

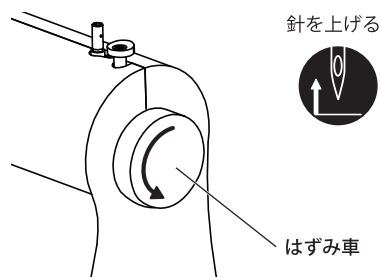
保管には充分ご注意ください。



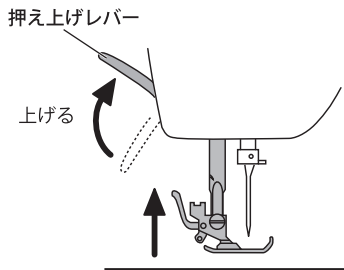
・付属品などの小さな部品は口に入れしないでください。

窒息をする恐れがあります。

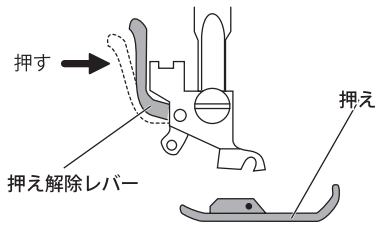
## ●押えのはずしかた



1 『はずみ車』を矢印方向に回し針を一番上にします



2 『押え上げレバー』を上げます。



3 『押え解除レバー』を押すと、『押え』がはずれます。



**注意**

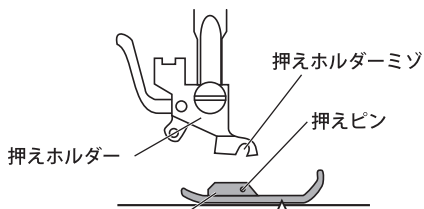


• 小さな部品でお子様がかがをする恐れがあります。  
保管には充分ご注意ください。



• 付属品などの小さな部品は口に入れないでください。  
窒息をする恐れがあります。

## ●押えの取り付けかた

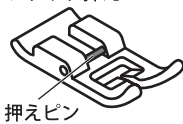


1 『押え上げレバー』を上げます。

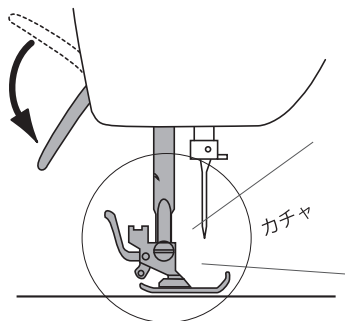
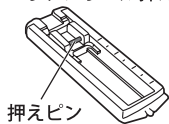
2 『押えピン』を『押えホルダーミツ』の真下に置きます。

押え

ジグザグ押え



ボタンホール押え



3 『押え上げレバー』をゆっくり下げ、『押えピン』と『押えホルダーミツ』を合わせます。

\* 『押え』がすぐにはずれる場合は、『押えピン』と『押えホルダーミツ』が合っていません。  
もう一度『押え』の位置を確認してください。

# 電源を入れる前に

縫い損じを防ぐため、次のことを実施してください。



## 注意

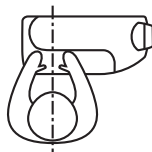


- 安定した場所に設置する。
- 作業スペースを十分に確保する。
- 周囲に物を置かない。
- はずみ車や針など動く部分が露出しています。ケガの原因になります。

## ●ミシンをより快適につかうために



針先が無理なく見える位置にミシンを設置してください。



針の中心と身体の中心が一致するようにミシンを設置してください。

収納のとき、本体に糸がかかっている場合は糸ははずす。

収納のときに、かけていた糸がはずれる場合があり、そのまま縫い進めると、故障の原因になります。

『はずみ車』を手で回し、ミシンが正常に動くかを確認します。

針が曲がっていると、ポビンケースや針板に針が当り、折れたり傷を付ける場合があります。

# 電源を入れる



## 警告



- 電源コードはプラグ部分を持って抜き差しする。コードを引っ張ると、電源コード部分が破損し、死亡、火災、感電、機器故障の原因になります。



- 電源コードを身体に巻きつけないでください。窒息やうっ血の恐れがあります。



## 注意



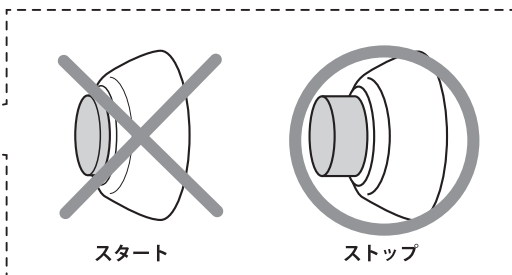
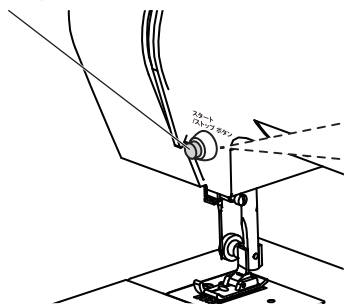
- 電源を『OFF』にする。
- はずみ車や針周辺に手や物を置かない。突然動くときケガをする恐れがあります。

- 電源コードを差し込む前の注意

『スタート/ストップボタン』を、必ず『ストップ』にしてください。

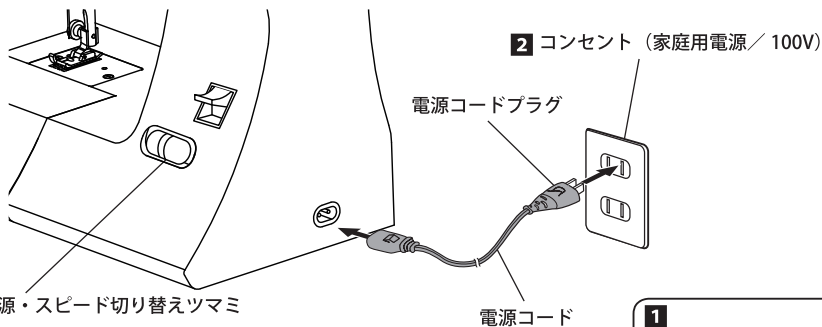
スタート/ストップボタン

突然動くときケガをする恐れがあります。



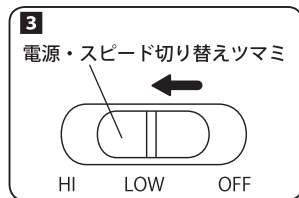
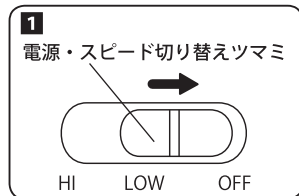
スタート

ストップ

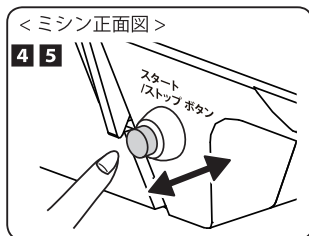


**3 1** 電源・スピード切り替えツマミ

- 1 『電源・スピード切り替えツマミ』を『OFF』にします。
- 2 『電源コード』をミシンに差し込み、コンセント (家庭用電源 / 100V) に、『電源コードプラグ』を差し込みます。
- 3 『電源・スピード切り替えツマミ』を『LOW』または『HI』にあわせます。



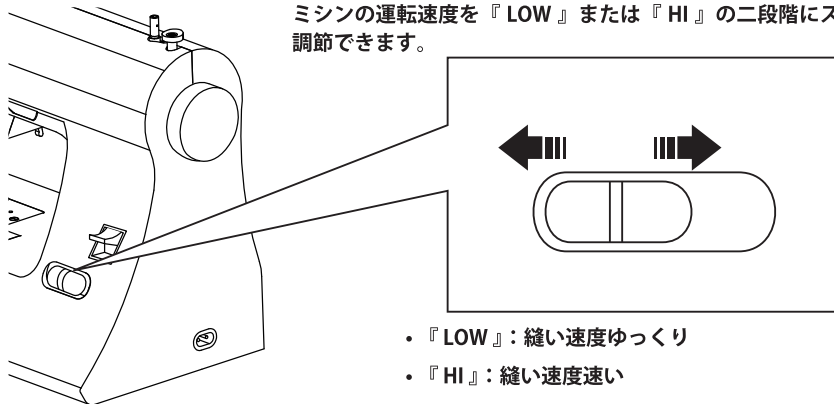
- 4 『スタート/ストップボタン』を押すとミシンが動き始めます。
- 5 もう一度『スタート/ストップボタン』を押すとミシンが止まります。



\* 使用後は、必ず電源コードプラグをコンセントから、抜いてください。

## スピードの調節

ミシンの運転速度を『LOW』または『HI』の二段階にスピードを調節できます。



- 『LOW』: 縫い速度ゆっくり
- 『HI』: 縫い速度速い



# ボビンの取り出しかた



## 警告



- 付属品などの小さな部品は口に入れないでください。  
窒息をする恐れがあります。



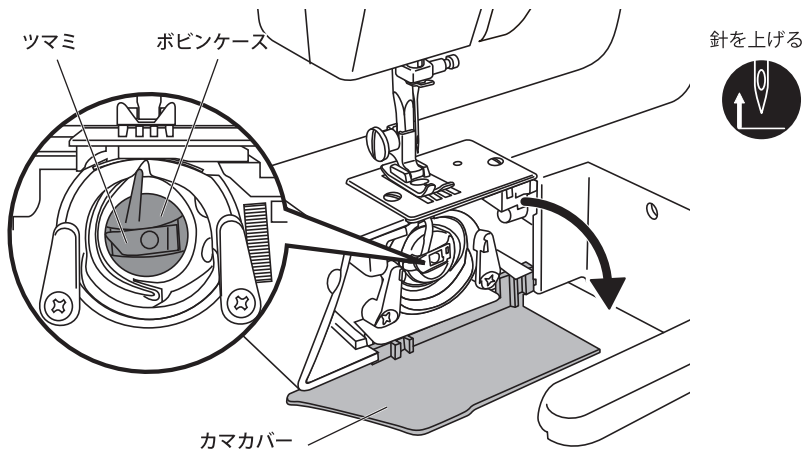
## 注意



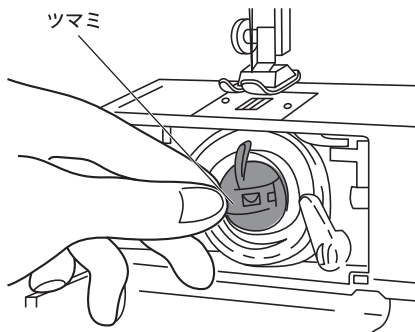
- 電源を『OFF』にする。  
突然動くとかげをする恐れがあります。



- 針先に注意する。  
ケガをする恐れがあります。



4



1 『はずみ車』を回し、針を一番上にします。

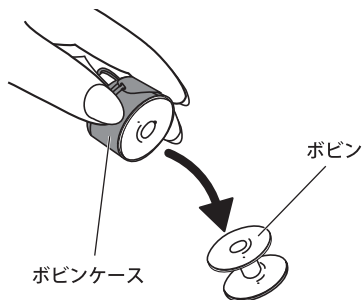
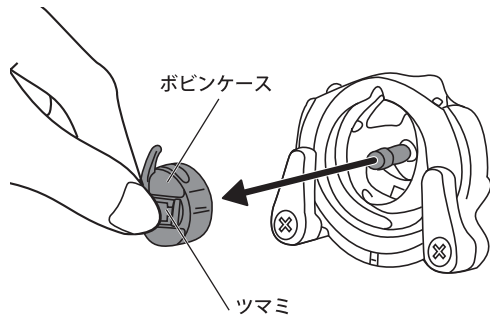
2 『補助テーブル』をはずします。

3 『カマカバー』を開きます。

4 『ボビンケース』の『ツマミ』をおこし、  
つまんだまま引き抜きます。

5 ツマミを閉じると中の『ボビン』を取り出せます。

5



# 下糸の巻きかた

**警告**



・ 付属品などの小さな部品は口に入れないでください。  
窒息をする恐れがあります。

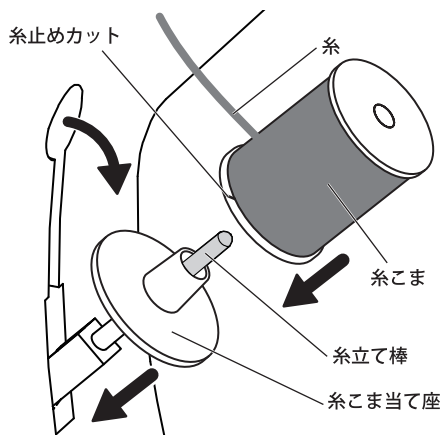
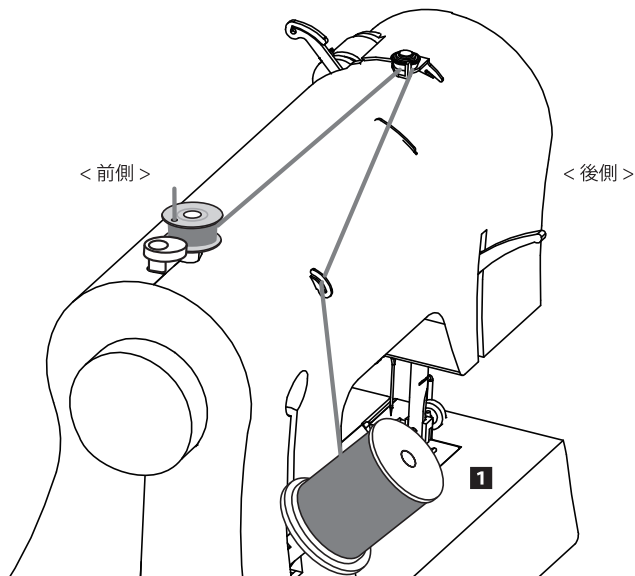
**注意**



・ 電源を『OFF』にする。  
突然動くときケガをする恐れがあります。



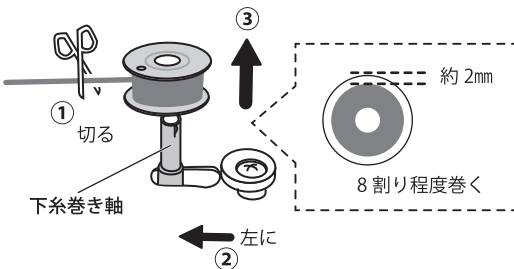
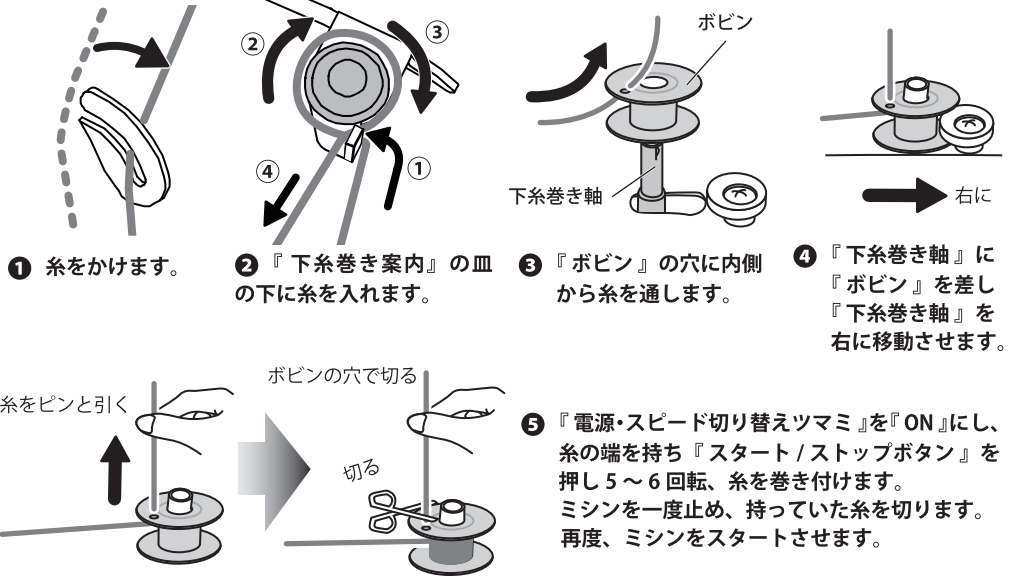
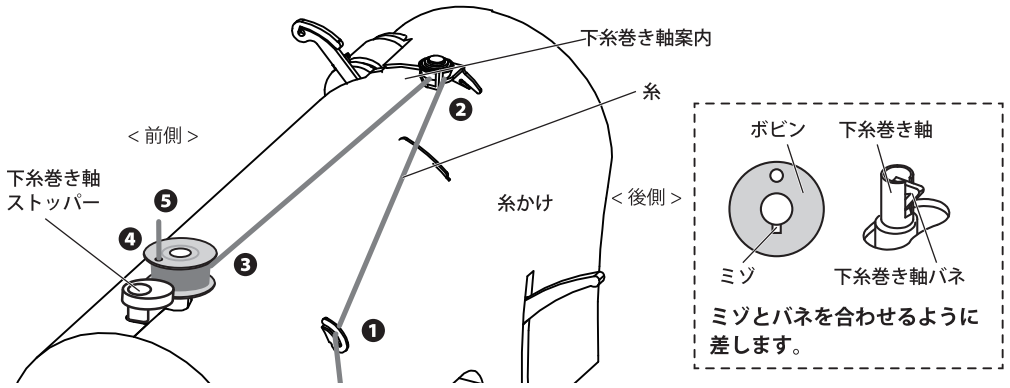
・ 針先に注意する。  
ケガをする恐れがあります。



- 1** 『糸立て棒』をひきだします。  
『糸こま当て座』を差します。  
『糸止めカット』を下に向けて差し、  
糸をひきだします。



2



5 糸を巻き終わったら、ミシンを止め、糸を切ります。『下糸巻き軸』を左に戻し、『ボビン』を抜きます。

# 下糸のセット

**警告**



・ 付属品などの小さな部品は口に入れないでください。  
窒息をする恐れがあります。

**注意**



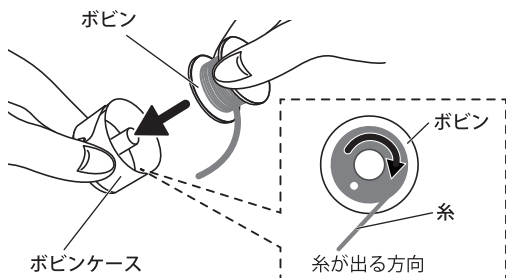
・ 電源を『OFF』にする。  
突然動くケガをする恐れがあります。



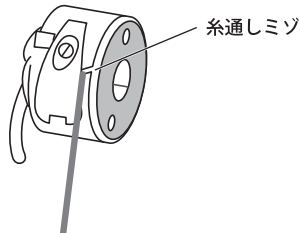
・ 針先に注意する。  
ケガをする恐れがあります。

・ ボビンは家庭用プラスチックボビン (11.5 × 20.5mm) をご使用ください。  
異なるボビンをご使用されますとミシンが故障する恐れがあります。

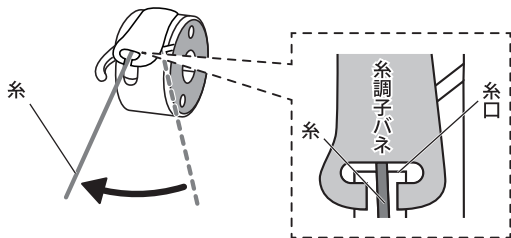
## ● ボビンケースにボビンをセット



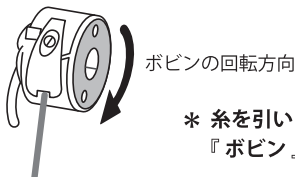
**1** 『ボビン』から糸を 10cmほど引き出し、糸の端が右側にくるように『ボビンケース』の中に入れます。



**2** 糸の端を持ち、『糸通しミゾ』に入れます。



**3** 『ボビン』が回転しないように、押えながら糸を左に引き、『糸口』まで糸を引きます。



\* 糸を引いたとき、『ボビン』がスムーズに回転しない場合は『ボビン』や『ボビンケース』が変形している恐れがあります。

**警告**



・付属品などの小さな部品は口に入れないでください。  
窒息をする恐れがあります。

**注意**

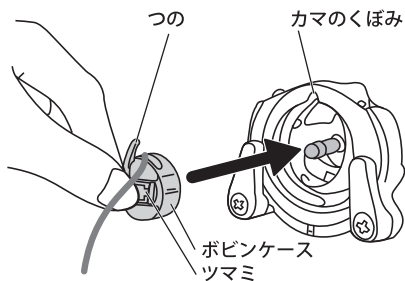


・電源を『OFF』にする。  
突然動くとかげをする恐れがあります。

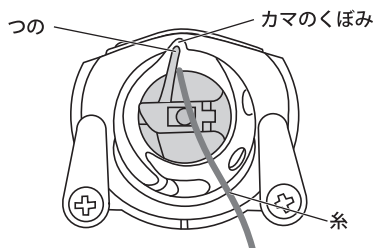


・針先に注意する。  
ケガをする恐れがあります。

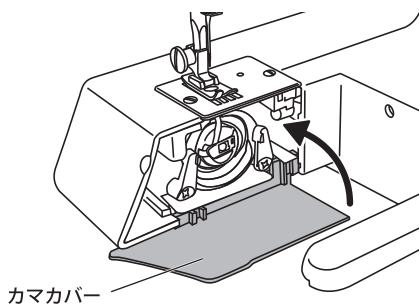
●ボビンケースをカマにセット



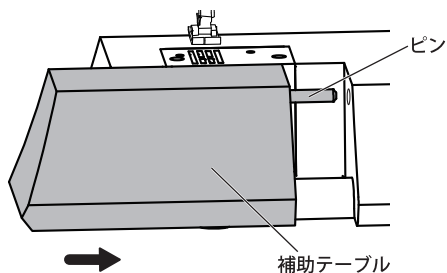
1 『ツミミ』を持ち、『つの』を『カマのくぼみ』に入るように合わせ、奥まで差し込みます。



2 『ボビンケース』が固定されたことを確認して糸を手前にたらしておきます。



3 『カマカバー』を閉じます。



4 ピンを穴に入れ、『補助テーブル』を取り付けます。

# 上糸のかけかた



**警告**



- ・ 付属品などの小さな部品は口に入れないでください。  
窒息をする恐れがあります。



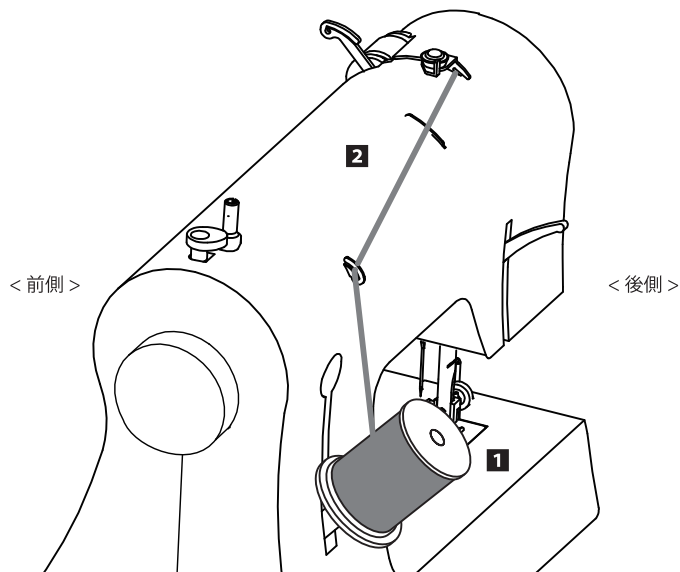
**注意**



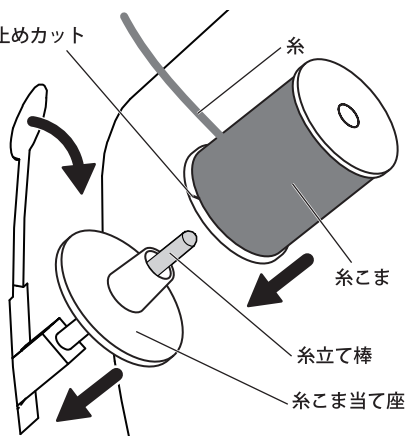
- ・ 電源を『OFF』にする。  
突然動くとかげをする恐れがあります。



- ・ 針先に注意する。  
ケガをする恐れがあります。

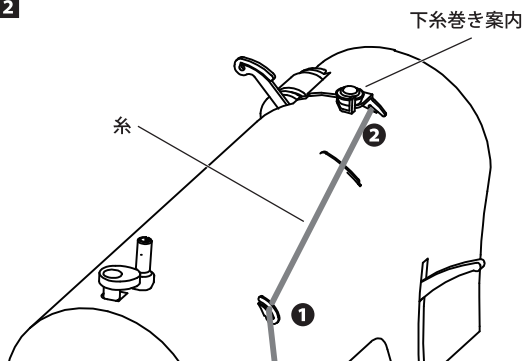


糸止めカット



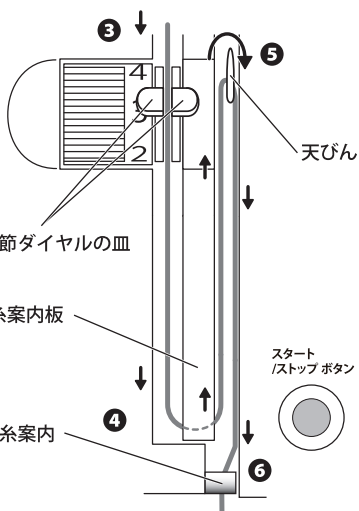
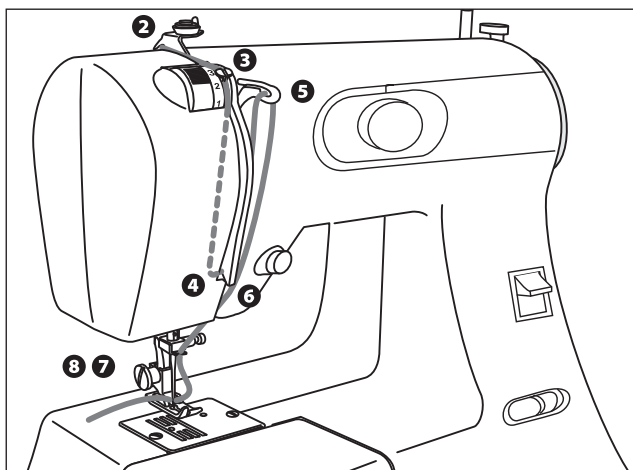
- 1 『糸立て棒』をひきだします。  
『糸こま当て座』を差します。  
『糸止めカット』を下に向けて差し、  
糸をひきだします。

2



① 『糸かけ』に糸を  
かけます。

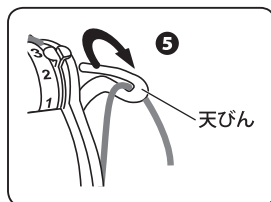
② 『下糸巻き案内』に  
糸をかけます。



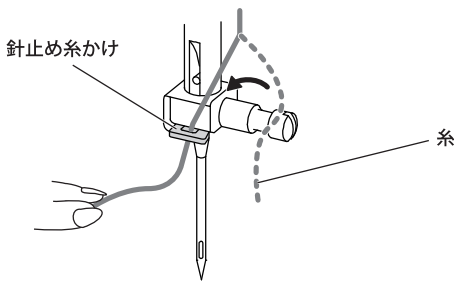
③ 『上糸調節ダイヤルの皿』左右の間に糸を  
入れます。

④ 糸を下まで降ろし、右上に引き上げます。

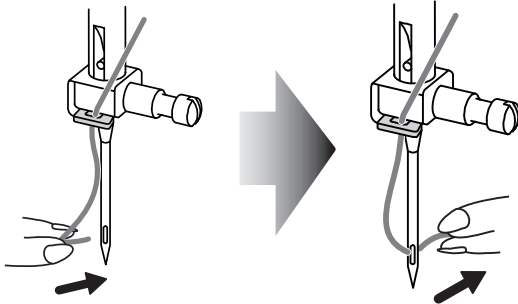
⑤ 左から右に糸を通します。



⑥ 『糸案内』に糸をかけます。



⑦『針止め糸かけ』に糸を通します。



⑧『針』の穴に糸を通します。

## 下糸の引き上げかた

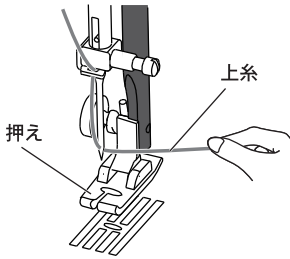
**注意**



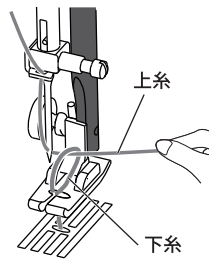
・電源を『OFF』にする。  
突然動くとかげをする恐れがあります。



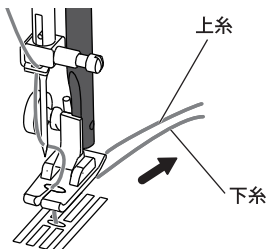
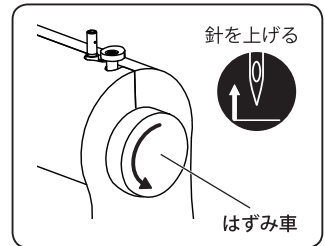
・針先に注意する。  
ケガをする恐れがあります。



①『押え』を上げ、上糸の先を持ちます。



②はずみ車を手前に回し、針を上げると、下糸の輪が引き出されます。  
下糸の輪をつまみ、下糸を引き上げます。



③上糸と下糸をそろえ、『押え』の下に10cmほど引き出します。

# 針、糸、生地の関係

きれいに縫うためには、生地に合った針と糸をご使用ください。(下記の表を参照)

糸はミシン糸をご使用ください。手縫い糸は使えません。

上糸と下糸は同じ種類・同じ太さの糸をご使用ください。

針は家庭用ミシン針 (HA × 1)、糸は家庭用ミシン糸とご指定の上お買い求めください。

(工場出荷時、ミシンには 14 番の針が装備されています) (針の交換方法は P33 ~ P34 をご参照ください)

\* 下記の表はあくまで参考です。必ず試し縫いを行い、縫い目をご確認ください。

	生地の種類	針の種類・番号	糸の種類・番号
普通地	一般服地、ブロード、ソフトデニム、サテン、 バイル、ギンガムなど	11、14 番	綿 60 ~ 90 絹 50 ~ 90 化繊糸 60 ~ 90
薄地	一般裏地、ローン、ジョーゼット、 レース、キュブラなど	9、11 番	綿 60 ~ 100 絹 50 ~ 90 化繊糸 60 ~ 90
厚地	キルティング、フリース、 ツイード、デニム、フェルトなど	14、16 番	綿 40 ~ 50 絹 50 化繊糸 40 ~ 60
伸縮地	ニット、トリコット、 スパンテックス、ジャージなど	ニット用針 11、14 番	綿 40 ~ 50 化繊糸 40 ~ 60 ニット用糸 50 ~ 90

\* 針は数字が大きくなるほど太くなります。

\* 糸は数字が大きくなるほど細くなります。

# 直線縫い

**注意**



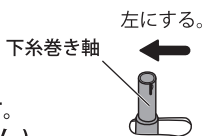
・ 模様選択の際は針を上げる。  
針が折れケガをする恐れがあります。



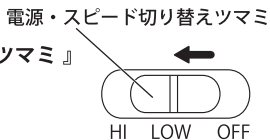
・ 針先や天びんに注意する。  
ケガをする恐れがあります。

## 準備

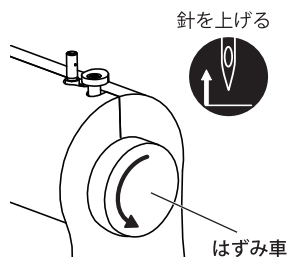
- 『下糸巻き軸』を左側にします。  
(軸が右にあると針が動きません)



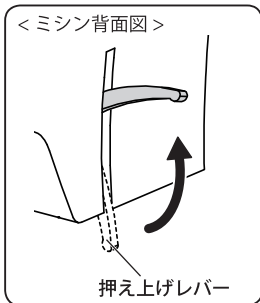
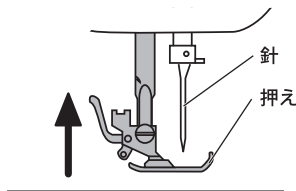
- 『電源・スピード切り替えつまミ』を『LOW』にします。



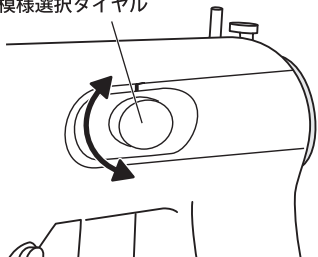
- 針を一番上にします。



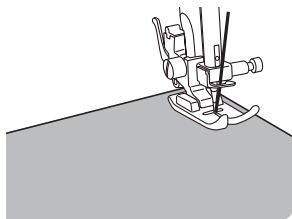
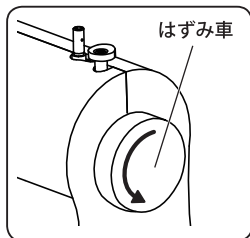
- 『押え』を上げます。



模様選択ダイヤル

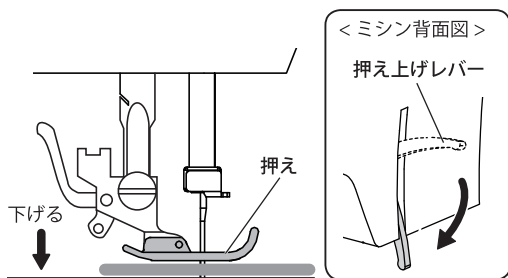


- 生地を『押え』の下に置き、『模様選択ダイヤル』を回し直線縫いの模様に合わせます。

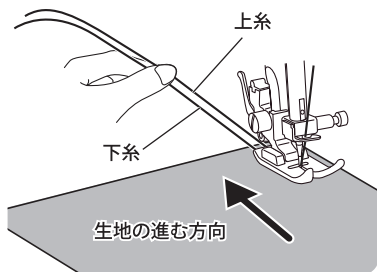


- 『はずみ車』を手前に回して縫い始める位置に針をさします。



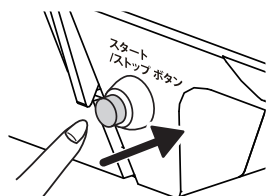


**3** 『押え』を下げます。

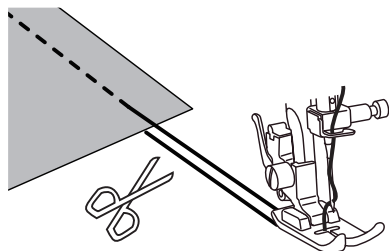


**4** 『スタート/ストップボタン』を押し、縫い始めます。

\* 縫い始めの際、上糸と下糸をミシン後方へ軽く持ちながら縫い始めると、縫い始めの縫い目がきれいになります。



**5** 生地に手を軽くそえ、生地が進む方向を修正・補助します。  
『スタート/ストップボタン』を押し、ミシンを止めます。



**6** 『押え上げレバー』を上げ、生地を後方へ引き出します。  
その後、糸を切ります。

\* 薄地や送りの悪い生地を縫う際は、ハترون紙などの薄い紙を生地の下に敷くとスムーズに縫うことができます。

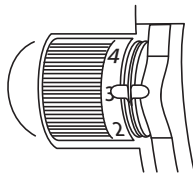
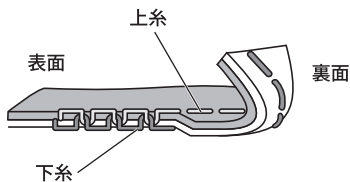
\* 縫い始めと縫い終わりに『返し縫いボタン』で返し縫いをするとほつれ止めになります。(P26 ご参照ください)

# 糸調子の合わせかた

糸調子合わない場合は、『上糸調節ダイヤル』を回し調節してください。

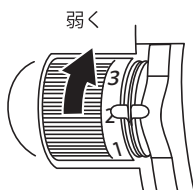
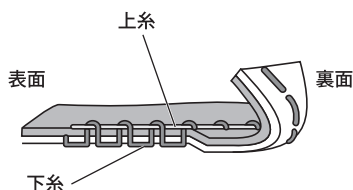
## ●正しい糸調子

上糸調節ダイヤル（標準的な位置の数字：3～4）



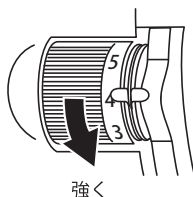
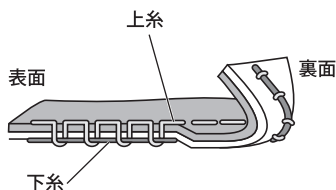
上糸と下糸が生地のほぼ中央で交わります。

## ●上糸が強いとき



下糸が生地の表に出ます。  
『上糸調節ダイヤル』を上方向に回し数字を小さくします。

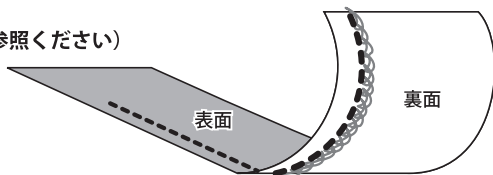
## ●上糸が弱いとき



上糸が生地の裏に出ます。  
『上糸調節ダイヤル』を下方向に回し数字を大きくします。

## ●生地裏面に糸がタオル地のようなときは…

- 上糸の糸調子が弱い。
- 『押え上げレバー』が上がっている。
- 『天びん』から上糸がはずれている。
- 上糸のかけかたが間違っている。(P19～P21をご参照ください)
- 糸が太すぎる。(太さは#40までの仕様です)
- 針に不具合が生じている。



## ポイント！

『押え』を上げ、ミシンから上糸を全てはずし、上糸を再度正しくかけ直してください。  
(P19～P21をご参照ください)

# 返し縫い



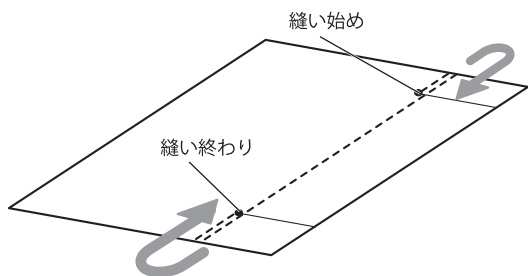
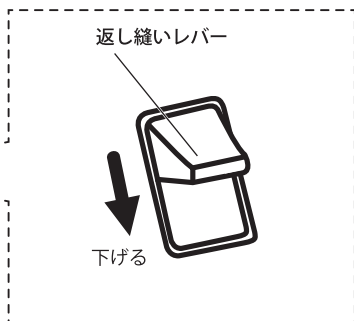
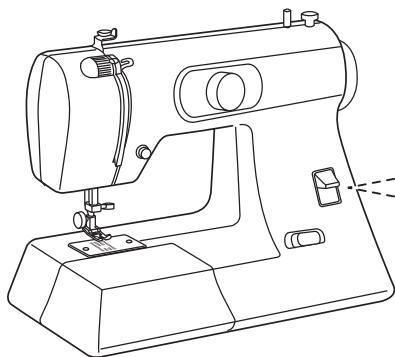
注意



• 針先や天びんに注意する。  
ケガをする恐れがあります。



• 針が生地に刺さった状態で  
返し縫いレバーを下げない。  
ケガをする恐れがあります。



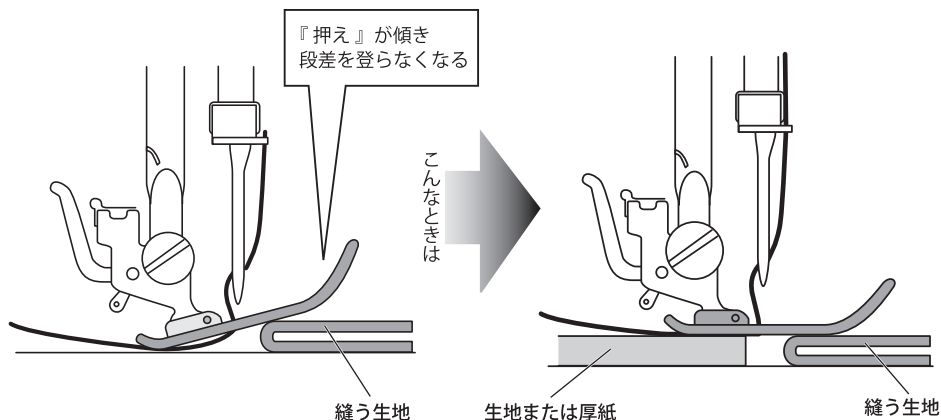
『返し縫いレバー』を下げ、『返し縫い模様』の位置まで下げている間は返し縫いになります。

- \* 縫い始めと縫い終わりに返し縫いを行うとほつれどめになります。
- \* 生地端ギリギリから返し縫いをすると生地が食い込んでしまう場合があります。

# 厚地を縫う

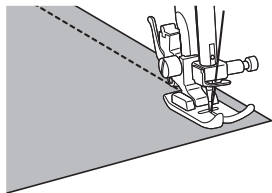
縫い始めや段差を縫うとき

厚地の生地を生地端から縫い始めるときに『押え』が傾き、スムーズに縫えないことがあります。このようなときは、『押え』の下に生地と同じ厚さの厚紙などを置き、『押え』の傾きをなくします。

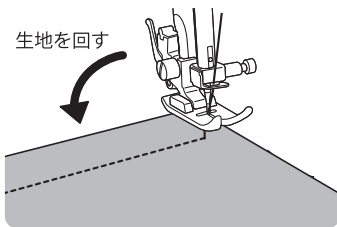


# 縫い方向を変える

**注意**  針先や天びんに注意する。  
ケガをする恐れがあります。





- 1 生地の方の少し手前でミシンを止め、『はずみ車』を手で回して角まで縫い、針を一番下まで下げます。



- 2 『押え』を上げ、針を軸にして生地を回し縫い方向を変えます。
- 3 再び、『押え』を下げ縫い始めます。

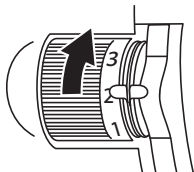
# ジグザグ縫い / 縁かがり縫い


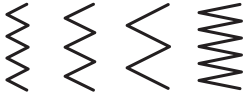
**注意**  模様選択の際は針を上げる。  
針が折れケガをする恐れがあります。

 針先に注意する。  
ケガをする恐れがあります。

## ポイント!

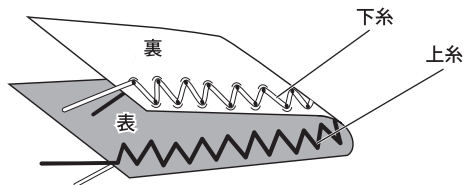
直線縫いよりも『上糸調整ダイヤル』をやや弱めにするときれいに縫えます。



押え	模様表示
	
ジグザグ押え	小 中 大 ジグザグ縫い 密着縫い

### ●ジグザグ縫い

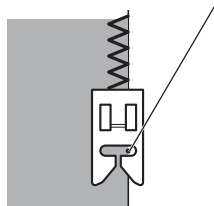
- 1 『模様選択ダイヤル』で模様を選択します。  
\* 模様選択の際は、必ず針を上げます。
- 2 『押え』を下げ縫い始めます。



### ●縁かがり縫い

- 1 『模様選択ダイヤル』で模様を選択します。  
\* 模様選択の際は、必ず針を上げます。
- 2 『はずみ車』を手前に回して針が右に来た際に、生地端より針が少し外れるように生地を置き、『押え』を下げ縫い始めます。

右側で針がささる位置



# ボタンホール縫い



**注意**



・ 押え交換時は電源を『OFF』にする。  
突然動くとケガをする恐れがあります。



・ 針先に注意する。  
ケガをする恐れがあります。



**注意**



・ 縫い損じを防ぐため、製品に縫う前に必ず別生地でボタンホールを作り、ボタンが通るかどうか確認ください。

## ポイント！

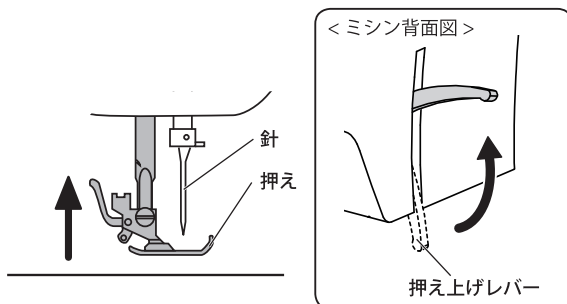
・ 伸縮性の生地や薄い生地は接着芯・不織布（芯地）を生地裏面に貼るとよりきれいに仕上がります。

押え	模様表示
<p>ボタンホール押え</p>	<p>ボタンホール</p>

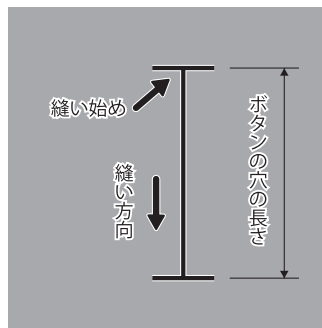
## 準備



・ 針を一番上にします。



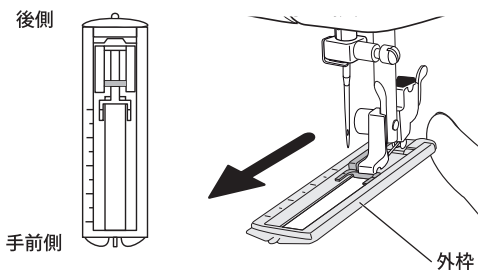
・ 『押え上げレバー』を上げ、押えを『ボタンホール押え』に交換します。（P9～P10 ご参照ください）



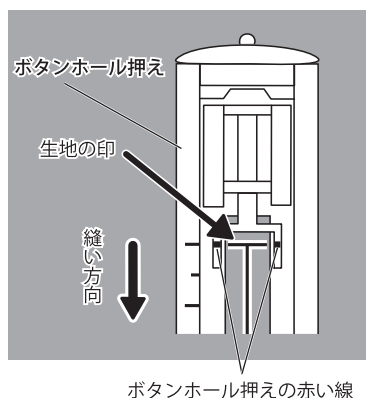
**1** ボタンの大きさと厚さ、布地の種類に応じてボタン穴の長さを決め、ボタンホールを作る生地に印を付けます。

\* 印を付けておくと、縫う方向を間違えません。

ボタン穴の長さ = ボタンの直径 + ボタンの厚み











2 『ボタンホール押え』は外枠を手前に引いておきます。





3 生地に付けたボタンホールの印と『ボタンホール押えの赤い線』を合わせ生地を置きます。『押え上げレバー』で『ボタンホール押え』を下げます。

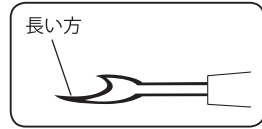
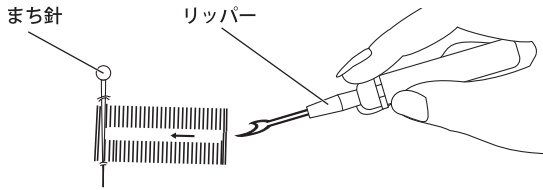
\* 印が斜めになっていると、ボタンホールが斜めに作られますのでご注意ください。

#### 4 ボタンホールの縫いかた。

模様	1 	→	2 	→	3 	→	4 
縫いかた		→		→		→	
	A から B の位置でミシンを止めます。		5～6針かんぬき止めをし、ミシンを止めます。		B から C の位置でミシンを止めます。		5～6針かんぬき止めをし、ミシンを止めます。

5 ボタンホールの穴にする部分に付属の『リッパー』を使用します。




 <b>注意</b>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>リッパーの先端に触れない。 ケガをする恐れがあります。</li> </ul>
--	---






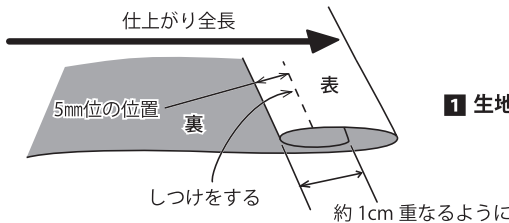
- \* 『まち針』をかんめき部分に刺しておくで、切り開き過ぎを防げます。
- \* 『リッパー』は長い方を刺し、押しながらボタン穴を切り開きます。

## まつり縫い (ブラインドステッチ)

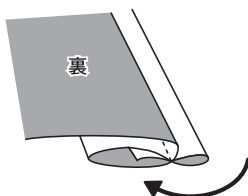
スカートやズボンの裾上げをする際に用います。生地の上に目立たない縫い目です。

 <b>注意</b>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>模様選択の際は針を上げる。 針が折れケガをする恐れがあります。</li> </ul>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>針先に注意する。 ケガをする恐れがあります。</li> </ul>
--	---	--

押え	模様表示	
 ジグザグ押え	 まつり縫い	 伸縮まつり縫い

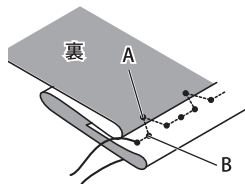
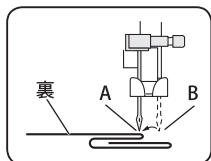


1 生地を図のように折り、しつけをします。

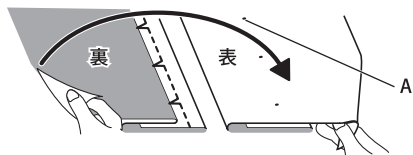


2 しつけの所から折り返しアイロンで伸ばします。

しつけの縫い目を開き、  
アイロンで伸ばす



3 『はずみ車』を手前に回し針を左側でゆっくり下げ生地の折り山 (A) にわずかに針がかかるよう生地の位置を合わせて縫います。



4 生地を返し、しつけ糸を抜きます。

\* (針がかかる量が少ないほど、表面に目立ちにくくなります。  
また、生地の折り山に針が掛からないと仕上がりが目飛びをします。)

## アップリケ

市販や自作のアップリケ布を別生地に縫いつけます。  
模様選択は、形や大きさに応じて選びます。



**注意**

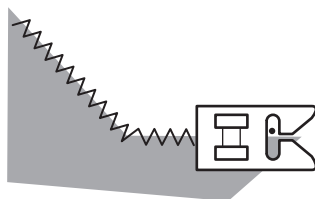
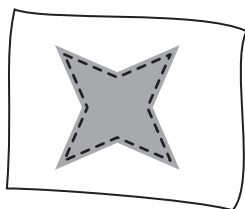


・ 模様選択の際は針を上げる。  
針が折れケガをする恐れがあります。



・ 針先に注意する。  
ケガをする恐れがあります。

押え	模様表示
<p>ジグザグ押え</p>	<p>中 大 ジグザグ縫い</p>



1 アップリケ布を生地にしつけるか、布用ボンドで仮止めします。

2 アップリケ布の回りを縫い付けます。

\* 縫い方向を変える際は、アップリケ布の外側に針を刺し、押えを上げ生地全体を回します。



# ゴムテープ付け

袖口などのゴム付けに使用します。

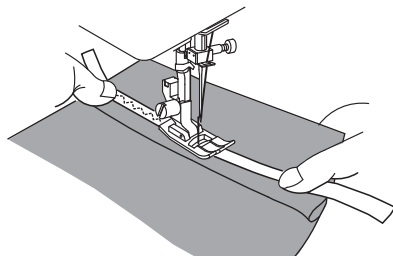
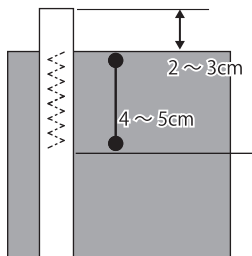
**注意**



- ・ 模様選択の際は針を上げる。  
針が折れケガをする恐れがあります。
- ・ 針先に注意する。  
ケガをする恐れがあります。

押え	模様表示
 ジグザグ押え	 点線ジグザグ縫い

\* ゴムテープは用途の長さより4～6cm長めに準備します。



**1** 生地に対しゴムテープを2～3cmはみ出し、4～5cm縫いミシンを止めます。

**2** 縫い終わり側のゴムテープ端を伸ばし、生地と一緒に押えながら縫います。

\* この間、ゴムは伸ばさないでください。

\* 目飛びをする際は針をニット用の針に交換してください。

# パッチワーク

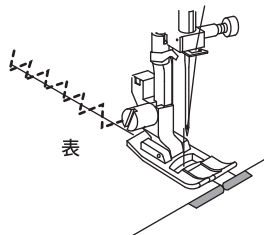
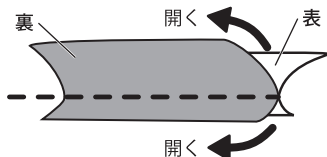
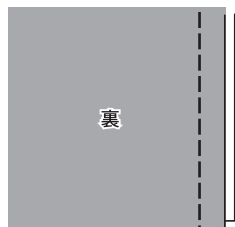
色々な生地をつなぎ合わせ、装飾に用います。

**注意**



- ・ 模様選択の際は針を上げる。  
針が折れケガをする恐れがあります。
- ・ 針先に注意する。  
ケガをする恐れがあります。

押え	模様表示
 ジグザグ押え	 点線ジグザグ縫い



**1** 2枚の生地を中表にし、直線縫いで縫い合わせます。

**2** 縫い合わせを開きます。

**3** 両方の生地に模様をまたがるように縫います。

# 針の取り替えかた



## 警告



- 付属品などの小さな部品は口に入れないでください。窒息をする恐れがあります。



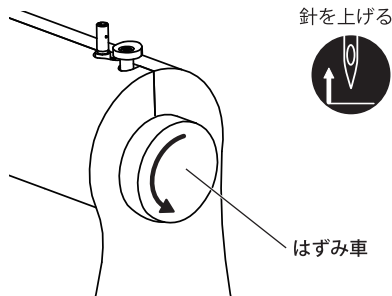
## 注意



- 電源を『OFF』にし電源コードプラグをコンセントから抜く。突然動くとケガをする恐れがあります。



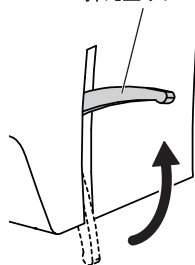
- 針先や天びんに注意する。ケガをする恐れがあります。
- 針は平らな面を後ろ向きに付ける。針が折れ、ケガをする恐れがあります。また、縫い目が出来ず縫えません。
- 針を付ける際はしっかり締める。縫っている際に針が抜け、ケガをする恐れがあります。
- 部品や工具などでお子様がケガをする恐れがあります。保管には充分ご注意ください。



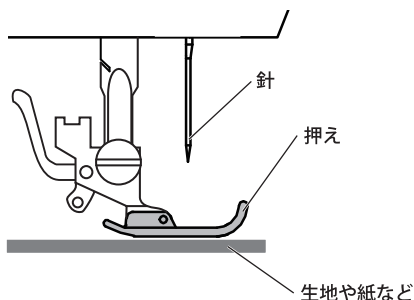
- 1 『はずみ車』を手前に回し、針を最上位にします。

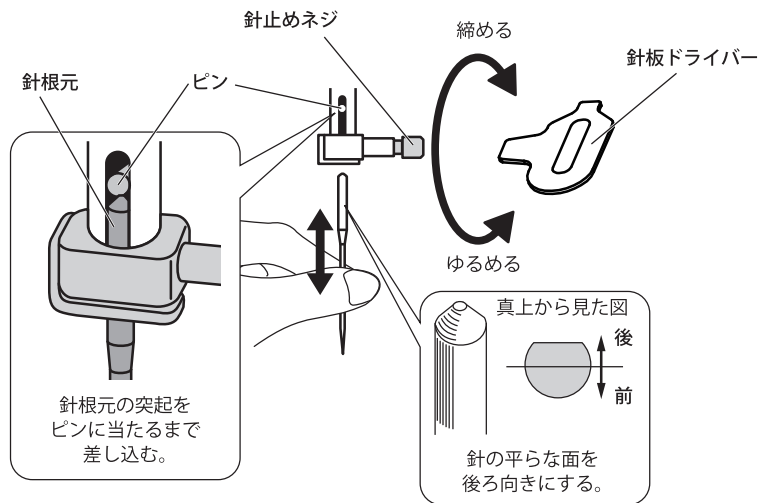
< ミシン背面図 >

押え上げレバー



- 2 『押え上げレバー』を上げ、針が穴に落ちないように『押え』の下に生地や紙などを敷き、『押え上げレバー』を下げます。





**はずす：** 取り付けられている針を持ち、『針止めネジ』をゆるめ、針を下に引き抜きます。

**付ける：** 平らな面を後方(自分から見えないよう)に持ち、針根元が『ピン』に当たるまで差し込み、『針止めネジ』を締めます。

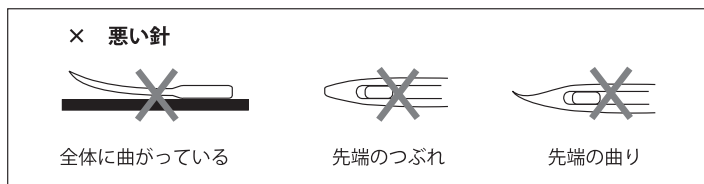
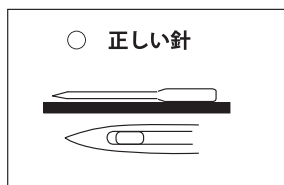
\* 必ず付属の『針板ドライバー』を使用します。使用中に針が抜け、故障の原因になります。

\* 針の交換の際に、押えの下に生地や紙などを敷き、針が誤って押えの穴に落ちないようにします。

## 正しい針の選びかた

- 曲がった針は使わないでください。
- 家庭用ミシン針 (HA × 1) をご使用ください。
- 目飛び、糸絡みがある場合は、ミシンについている針先が曲がっていたり、つぶれる場合があります。
- 不良の針を使い続けると、きれいに縫えないばかりでなく、針板や釜に傷をつけます。

一度新しい針に交換してください。 \* ガラスのような平らな面に置き、針の曲がり具合を確認してください。



# ボビンケースの掃除



## 警告



- 付属品などの小さな部品は口に入れないでください。  
窒息をする恐れがあります。



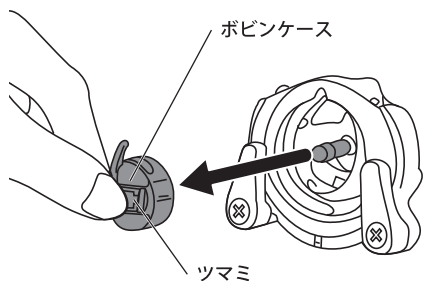
## 注意



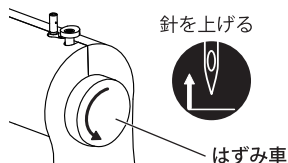
- 電源を『OFF』にし電源コードプラグをコンセントから抜く。  
突然動くとケガをする恐れがあります。



- 針先や天びんに注意する。ケガをする恐れがあります。
- 部品や工具などでお子様ケガをする恐れがあります。  
保管には充分ご注意ください。

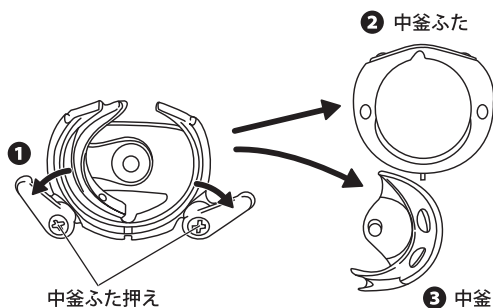


- 1 『はずみ車』を回し、『針』を上げます。

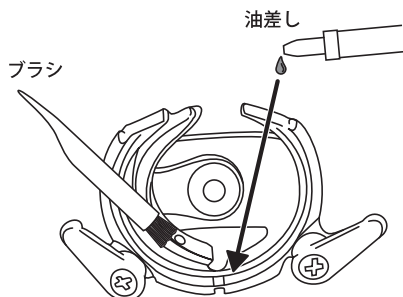


- 2 『補助テーブル』をはずし、『カマカバー』を開きます。  
(P8・P14をご参照ください)

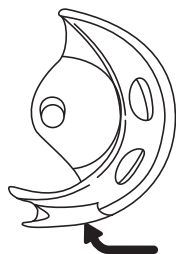
- 3 『ボビンケース』を取り出します。  
(P14をご参照ください)



- 4 『中釜ふた押え』を左右に開き  
『中釜ふた』→『中釜』の順番で取り出します。



- 5 カマのまわりの糸くずやほこりを取り除き、  
図で示したところに油を一滴差します。  
(差し過ぎないように注意する)

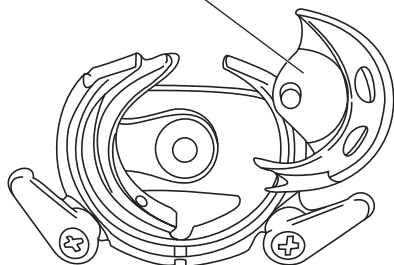


**\* 傷を確認**

傷がある場合…  
目の細かい紙やすり  
(400～1000番)で取り除く

- 6** 傷がある場合：紙やすりなどで取り除く。  
傷がない場合：研磨剤で磨く。

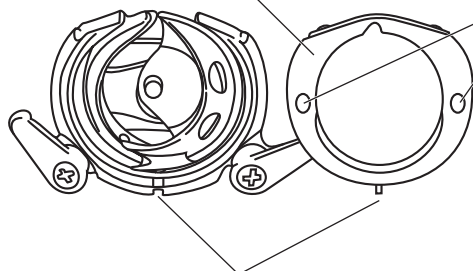
中釜（方向に注意）



- 7** 組み立てるときは、向きに注意して、『中釜』取り付けます。

中釜フタ

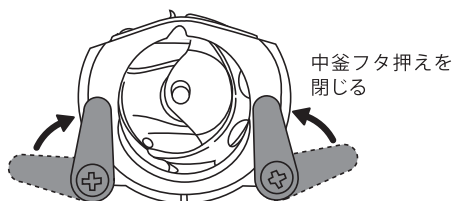
くぼみ



カマの溝とピンを合わせる

- 8** 『中釜フタ』を取り付けます。

\* くぼみのある面を表にします。



- 9** 『中釜フタ押え』を閉じて固定します。

# 送り歯の掃除



## 警告



- 付属品などの小さな部品は口に入れないでください。  
窒息をする恐れがあります。



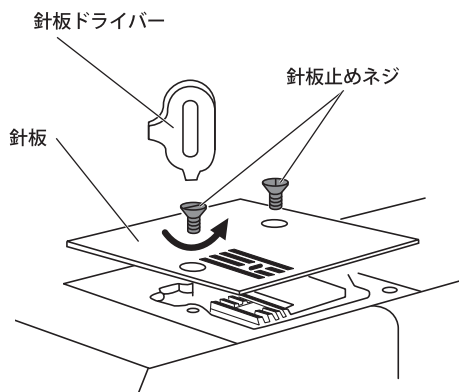
## 注意



- 電源を『OFF』にし電源コードプラグをコンセントから抜く。  
突然動くとケガをする恐れがあります。



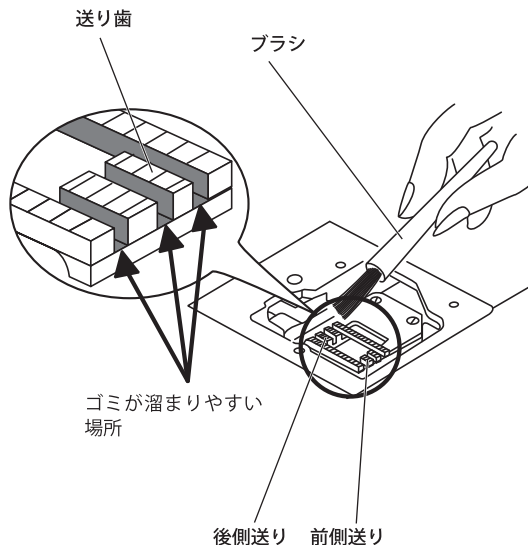
- 針先や天びんに注意する。ケガをする恐れがあります。
- 部品や工具などでお様がケガをする恐れがあります。  
保管には充分ご注意ください。



- 1 『針』、『押え』をはずします。  
(P9～10・P33～P34をご参照ください)

- 2 『針板止めネジ』2個をはずします。

- 3 『針板』をはずします。



- 4 『送り歯』の隙間や『前側送り、後側送り』にはさまっているゴミなどを取り除きます。

- 5 『針板』を『針板止めネジ』で止め『針』、『押え』を取りつけます。

# ランプの交換



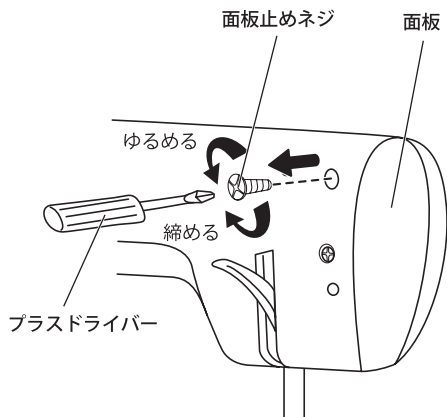
## 注意



- 電源を『OFF』にし電源コードプラグをコンセントから抜く。  
突然動くとケガをする恐れがあります。



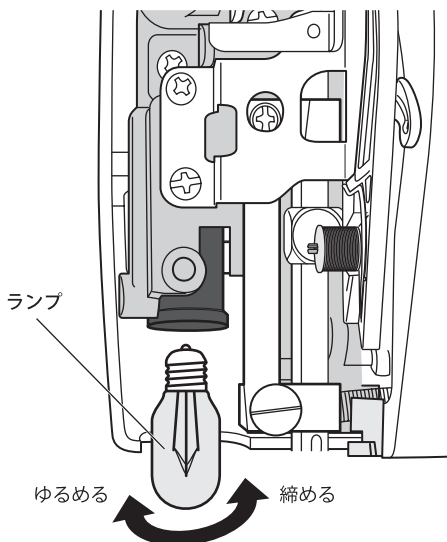
- ランプの取り扱いに注意する。  
火傷及びランプが割れてケガをする恐れがあります。  
\* 必ずランプが冷えるまでさわらない。



1. 『面板止めネジ』をはずし、『面板』を取ります。

- \* 『プラスドライバー』は付属していません。  
市販のプラスドライバーをご使用ください。

< 前側 >



2. 『ランプ』をゆるめ、はずします。

- \* 必ずランプが冷えるまでさわらないでください。
- \* 『ランプ』は口径 12mm、100V5W の電球 (E12) を  
使用してください。
- \* ワット (W) 数の異なるものは使用しないでください。

3. 『ランプ』を取り付ける際は、奥まで締めます。

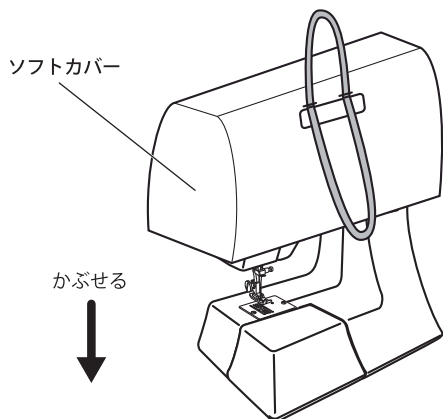
# ソフトカバー



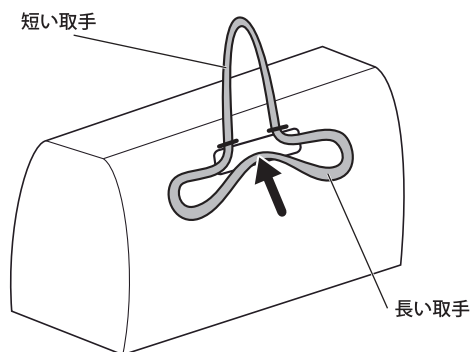
**注意**



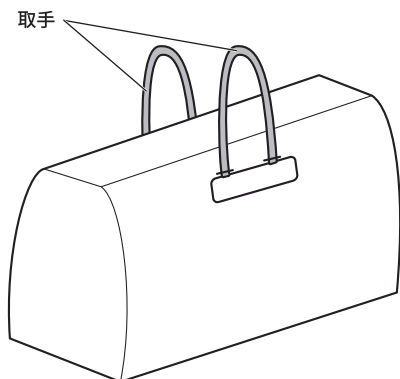
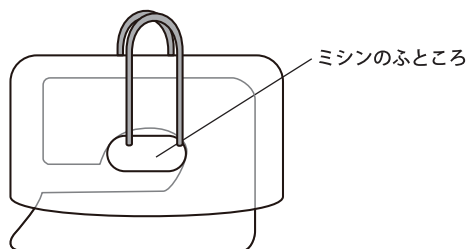
- 電源を『OFF』にし電源コードプラグをコンセントから抜く。  
突然動くとかげをする恐れがあります。



- 1** ソフトカバーをミシンにかぶせます。



- 2** 『長い取手』を『ソフトカバー』の穴、ミシンのふところに入れ通します。



- 3** 二つの『取手』を持ち、持ち運びできます。



# 困ったときは

不具合	原因	処理	ページ
上糸が切れる	上糸、下糸のかけかたが間違っている。	上糸、下糸を正しくかけ直す。	14～21
	上糸の糸調子が強すぎる。	上糸の糸調子を適正な強さまで弱める。	25
	ボビンケースやカマに糸くずが絡んでいる。	ボビンケースやカマの糸くずを取り除く。	35～37
	針が曲がっている。針先が欠けている。	新しい針に交換する。	33～34
	糸に結び目やコブがある。	結び目やコブの部分を取り除く。	-
	針や糸が生地に合っていない。	生地に合った針と糸を使用する。	22
	針の取り付けかたが間違っている。	正しく針を取り付ける。	33～34
	種類の異なったボビンを使用している。	種類の合ったボビンを使用する。	-
	糸が劣化している。	新しい糸に交換する。	-
下糸が切れる	下糸のかけかたが間違っている。	下糸を正しくかけ直す。	14～18
	ボビンケースやカマに糸くずが絡んでいる。	ボビンケースやカマの糸くずを取り除く。	35～37
	糸が劣化している。	新しい糸に交換する。	-
縫い目がとぶ	針の取り付けかたが間違っている。	正しく針を取り付ける。	33～34
	針が曲がっている。針先が欠けている。	新しい針に交換する。	33～34
	針や糸が生地に合っていない。	生地に合った針と糸を使用する。	22
	上糸のかけかたが間違っている。	上糸を正しくかけ直す。	19～21

# 困ったときは

不具合	原因	処理	ページ
生地がシワになる	上糸の糸調子が強すぎる。	上糸の糸調子を適正な強さまで弱める。	25
	上糸、下糸のかけかたが間違っている。	上糸、下糸を正しくかけ直す。	14～21
	針や糸が生地に合っていない。	生地に合った針と糸を使用する。	22
生地を送らない	送り歯にゴミがたまっている。	送り歯のホコリを取り除く。	37
生地の裏がタオル地になる	上糸のかけかたが間違っている。	上糸を正しくかけ直す。	19～21
	上糸の糸調子が弱すぎる。	上糸の糸調子を適正な弱さまで弱める。	25
回転が重い	釜や送り歯にゴミがたまっている。	釜や送り歯のゴミや糸くずを取り除く。	35～37
ミシンが動かない	電源コードプラグがコンセントにさしていない。	電源コードプラグがコンセントにさし込む。	11～12

# 仕様

型式：	FL-55	サイズ：	H33 × W18 × D27cm
重量：	4.7kg	模様：	13種類
最大送り量：	4.0mm	返し縫い送り量：	2.5mm
最大振り幅：	5.0mm	ボタンホール：	4ステップ
定格電圧：	交流 100V	定格周波数：	50/60Hz

定格消費電力：	50W	ランプ：	口径 12mm、5W の電球 (E12)
釜：	垂直半回転釜	回転速度：	300 ~ 500rpm
セーフティロック：	モーターロック後 (2 秒) で停止		
ボビン：	家庭用プラスチックボビン (高さ 11.5 × 直径 20.5mm)		
使用針：	家庭用ミシン針 (HA × 1)		

# 修理サービス要領

## ●修理サービスのご相談

1. このマシンのご購入者には、ご購入日から1年間の「無料修理保証書」が発行されます。内容をお確かめの上、大切に保管してください。
2. 修理サービスは無料保証期間内および期間経過後も原則としてご購入店が承りますので、ご相談ください。
3. 修理サービスについてお問い合わせやご不明な点がある場合は、ご購入店または、お客様相談係へお申しつけください。

## ●修理用部品の保有と供給期間

動力伝達機能部品および縫製機能部品のうち、交換修理に必要な部品は、ご購入の日から通常8年間は必要に応じて当社よりご購入店に供給できる体制を整えております。

## ●無料修理保証期間後の修理サービス

1. 取扱説明書に基づいて、正しいご使用とお手入れがされていれば、無料修理保証期間を経過しても修理用部品の供給可能期間中は、ご購入店を通じて有料で修理サービスをいたします。
  - イ. 保存上の不備または、誤使用により不調、故障または損傷したとき。
  - ロ. 浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
  - ハ. ご購入後の移動または輸送によって不調、故障、損傷したとき。
  - ニ. ご購入店または当社の指定する販売店あるいはサービス店以外で修理、分解、または改造したために不調、故障または損傷したとき。
2. 長期間にわたってご使用されたマシンの精度の劣化は修理によって元どおりに修復できないことがあります。
3. 有料修理サービスの場合の費用は、別に定める必要部品代金、交通費および技術料金の合計額となります。

## サービス工場・ご相談先

ミシンについてのご相談は、ご購入店または下記の弊社でも承っておりますのでお問い合わせください。また、ご購入いただきましたミシンの点検修理なども致します。なお、点検修理の際は有償修理点検と無償修理点検がありますので、詳しくは下記へお問い合わせください。

\* ミシンを工場へ送付されるときは、このミシンの箱と緩衝材（クッション）をご利用ください。



株式会社 アックスヤマザキ ミシンサービス係

**無料通話：0120-405-851**

月～金曜日 午前9：00～12：00 午後1：00～5：00（土曜/日曜/祭日休み）  
〒544-0022 大阪府大阪市生野区舎利寺3-12-5  
TEL. 06-6717-5851 FAX. 06-6741-7875





# ミシン保証書

型 式	FL-55	機械番号	
※お買い上げ日	年 月 日	保証期間	お買い上げ日より本体 1年
※お客様	ご住所	〒 _____ TEL _____ 様方	
	ご氏名	_____ 様	
※販売店	住所 店名	〒 _____ _____ TEL _____	

ご購入後には  
※印欄への記入の有無を  
ご確認下さい。

記入がない時は  
ご購入日、または  
お届け日が証明できる  
伝票等を添付して  
ください。

本書は再発行致しません。  
紛失しないように  
大切に保管して下さい。

## 無料修理保証に付いて

- 無料修理保証期間（ご購入の日から1年間）内に故障が発生した場合は、無料で故障箇所の修理調整、または故障部品の交換をいたします。
- 無料修理保証は表記ミシン本体のみとし、ケース、針及び電球、消耗部品を除きます。
- 無料修理保証をお受けいただくときは、この保証書を提示してください。
- 保証機種がコンパクトミシンまたは、軽量可搬のポータブルミシン等であるときは、そのミシンを購入店へご持参、またはご相談ください。

## 無料修理保証が受けられない場合

次のような場合には、保証期間内でも保証の対象とはなりません。

- 「取扱説明書」に記載してある使用方法または、保存方法と異なる方法によったため不調、故障または損傷したとき。
- 浸水、冠水、火災、天災地変により不調故障または損傷したとき。
- ご購入店、または当社で指定した販売店、サービス店以外で修理分解または改造したために不調、故障または損傷したとき。
- 職業用等過度なご使用により不調、故障または損傷したとき。
- 特別なご依頼により点検、精密検査または分解掃除等をしたとき。
- この保証書のご提示がなかったとき。
- この保証書に購入年月日、ご購入店名の記載または捺印がなかったとき。
- この保証書の字句の訂正または書き換えをしたとき。
- この保証書は日本国内に限り有効といたします

## 有償修理について

- 上記の1.～10.に該当する場合、その他有料で修理するときの費用は、別に定める必要部品代出張費および技術料の合計額といたします。
- コンパクトミシンまたは、軽量可搬のポータブルミシンを、無料修理期間中にお客さまのご依頼によって販売店が出張修理する場合は、別に定める出張費をいただきます。

## お問い合わせまたはご相談先

この保証書に記載してありますご購入店または、取扱説明書に記載された「サービス工場・ご相談先」へお問い合わせください。

## お客さまへのお願い

- この保証書は、本書によって明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従ってこの保証書によってお客さまの権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理について、ご不明の場合はご購入店または、当社の「サービス工場・ご相談先」等へお問い合わせください。
- 「取扱説明書」の「修理サービス要領」をよくお読みください。
- この保証書は紛失されても再発行いたしませんので、大切に保管してください。

